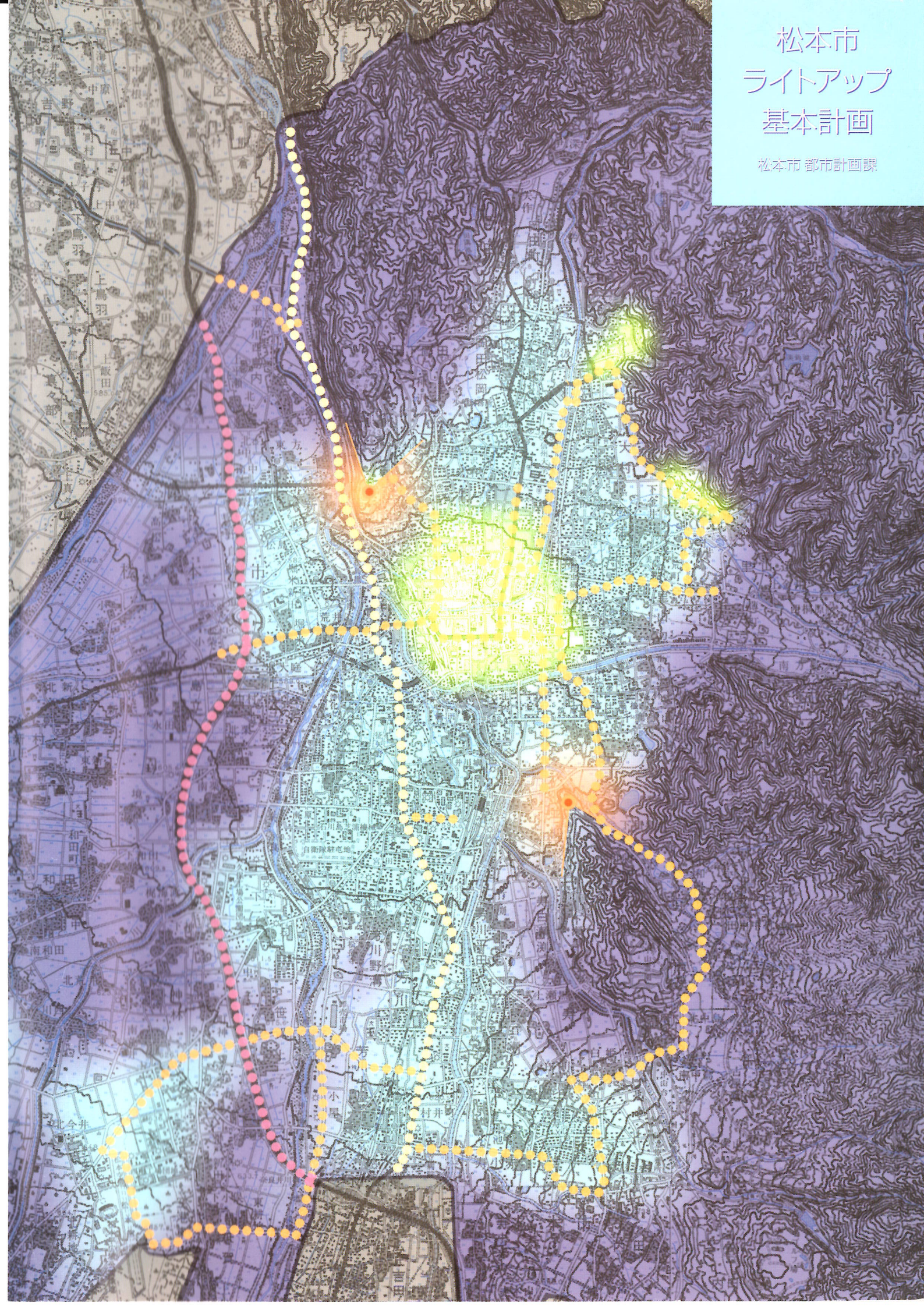


松本市
ライトアップ
基本計画

松本市 都市計画課



ごあいさつ



照明デザインのルーツを探ると、ルイ14世の時代のパリで、警察の命令で午後9時以降通りに面した窓に一晚中、松明(たいまつ)を灯させたのが発祥で、これだけでも都市に安全性を確保し、夜間空間に美観が創出され、生活時間が延長され、都市の活性化につながる画期的な出来事のようなものでした。

その後、松明やロウソクの時代からガス灯の時代をはさみ、白熱電球の発明以来、電気エネルギーが活用された照明は時代の流れに合わせて進化してまいりました。

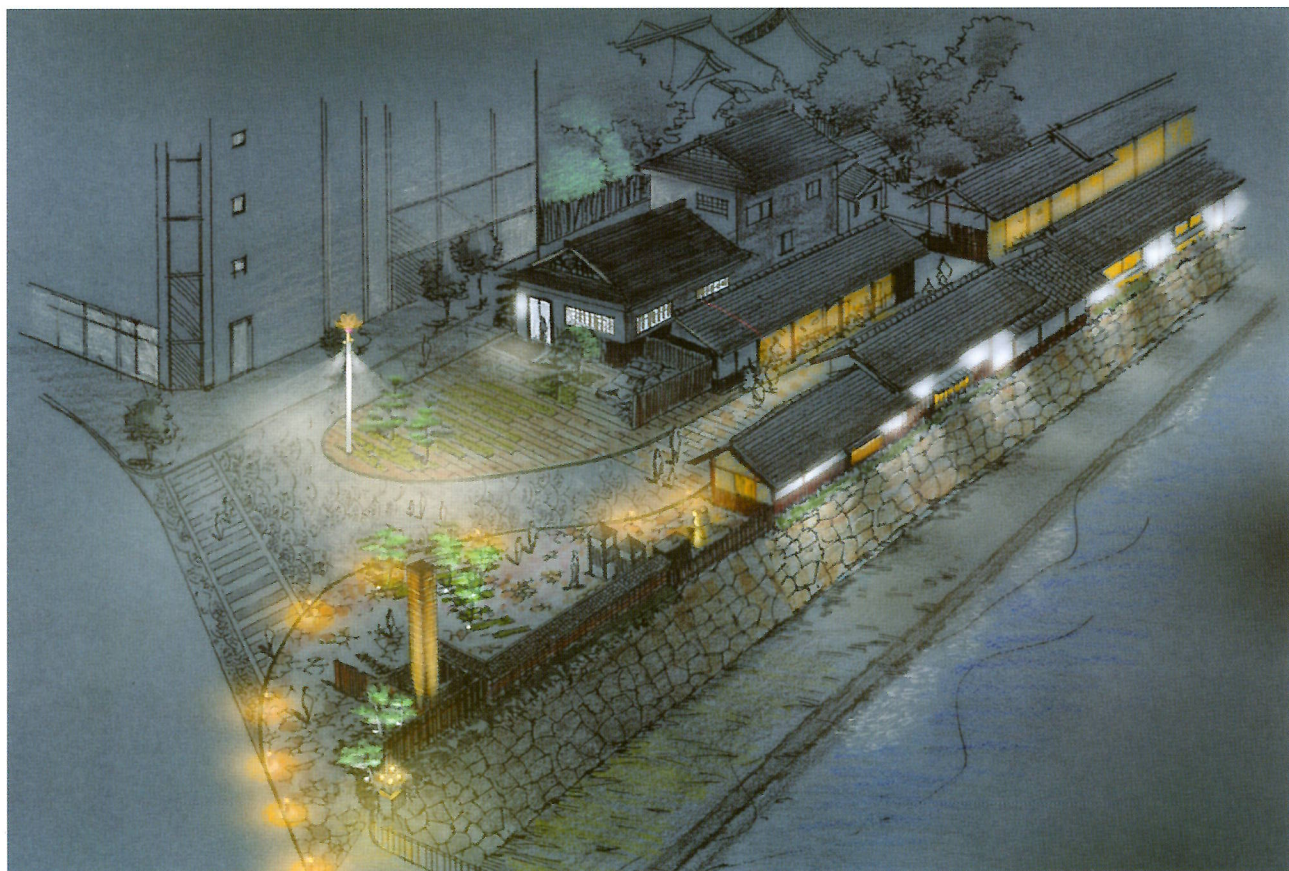
本市は平成19年に市制100周年を迎えるにあたり、急ピッチで21世紀のまちづくりを進めております。そのまちづくりに、夜間景観の演出を加えるため「ライトアップ基本計画」を策定しました。

この計画には、環境庁が平成10年3月に策定した「光害対策ガイドライン」の主旨に沿い、「景観」「生活」「共生」のバランスを考慮することで、松本の風土にマッチさせ、さらにはまちの活性化につながる「輝く光のまちづくり」を目標としています。

この小冊子に示す内容は、当面、公共施設から実施してまいります。既にライトアップされています松本城太鼓門、黒門や縄手通りのイメージが民間施設にまで広く伝わり、本市のまちづくりの理念の一助となれば幸いに存じます。

平成13年2月28日

松本市長 有賀 正



目 次

1. 基本計画の目的	1
夜間景観照明の考え方	1
2. 夜間景観形成の基本方針（コンセプト）	2
3. 松本市全域の景観ゾーン・軸・視点場の設定と方針	3
1 景観ゾーン	4
2 景観軸	6
3 視点場	7
4. 中心地域の景観ゾーンの設定と方針	8
① 観光ゾーン	9
② 商業、業務混在ゾーン	10
③ 商業、業務、住宅混在ゾーン	11
④ 住宅ゾーン	12
⑤ 駅前調整ゾーン	13
5. 夜間景観のローカルプラン	14
(1) 建築物・構造物	14
(2) 公園	15
(3) 街路	16
6. 照明手法と光源	17
(1) 建造物のための照明手法	17
(2) 公園のための照明手法	17
(3) 街路のための照明手法	19
(4) 光源	20
7. ケーススタディ	22
① 松本城エリア	22
② あがたの森エリア	23

近年、都市景観のあり方については、各地で議論されるだけでなく、合わせて具体的な整備事業として様々な形で実践されるようになってきた。

そうした中で、昼間の景観だけでなく夜間の景観のあり方が重要視されるようになり、「ライトアップ」や「光に関わる新しい行事・祭」などとして定着しつつある。これは、都市化に伴う夜間の生活時間の増大といった生活様式の変化だけでなく、更なる都市の活性化を求め、それぞれの都市が自らの個性を主張しようとする方向性に起因している。

松本市は、数多くの歴史的建造物、美しく雄大な自然景観、さらには歴史に育まれた文化など魅力ある様々な資源を有している。本市を一層魅力あるものにするためには、夜間景観は欠くことのできない重要な要素の一つであり、また滞在型の観光名所として確立するためにも、整備効果の高い歴史的な建造物のライトアップなどを初めとした、各種の景観照明の総合的な整備を計画的に行うことが必要である。

そこで本基本計画は、松本市の風土、地域性、街の形態等を踏まえ、光の基本的なコンセプトを設定することにより、ゾーニング化し、ストーリー性のある整備指針を策定し、本市のより良い夜間景観のための基本計画に資することを目的とする。

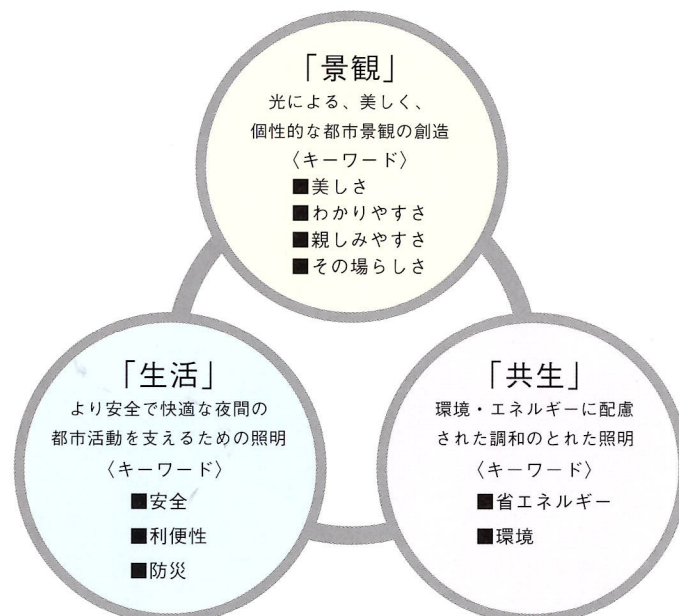
■夜間景観照明の考え方

夜間景観照明を考える場合、下記に示す3つの視点が重要となる。これらの視点のどれか一方に偏ることなく、バランスのとれた照明を考えていくことが、都市照明を快適で良好なものにする上で必要となる。

「景観」・・・ 建物や橋など対象物を、昼間の景観では気づかなかった魅力を光によって引き出すだけでなく、その街らしさや歴史を表現し個性ある景観をつくりだす。

「生活」・・・ 人々の日常の生活を支える照明であることを基本とし、特に犯罪や事故に対する安全確保は重要で、また人と街に活気をもたらす効果についても考慮する。

「共生」・・・ 美しい景観をつくる上でも無駄と思われる光は減らし、必要と思われる光もそのデザインや配光、効率に配慮し、できるだけ上空への飛散を抑え、環境への配慮と省エネルギーを実現する。



今後松本市において夜間景観形成を進めていく際の、基本的な考え方として以下の5つのコンセプトを策定する。

尚、これらのコンセプトは、夜間景観を考える上でそれぞれ個別に検討するものではなく、常にお互いのバランスを考慮しながら進めていくことが重要である。

景観

市街地を抱くように広がる周囲の山・緑といった、歴史的かつ地理的に特徴ある景観を生かし、厚みとメリハリのある夜間景観を創出する。

- 中心地域の光の拠点を開発する。
- 周辺地域の光の拠点を広げる。

観光

街のにぎわい演出や特徴あるゾーンを回遊できる仕組みを整え、滞在型の集客を図れるよう、観光資源としての魅力に満ちた光環境を創り出す。

- 特徴的なゾーンを巡るルートの設定。
- 視点場の整備。
- 商店街を魅力的にする照明。

個性

松本市ならではの歴史・文化といった資産を活かし、個性を表わすアイデンティティとしての夜間景観を創り出す。

- 歴史的建造物への照明。

生活

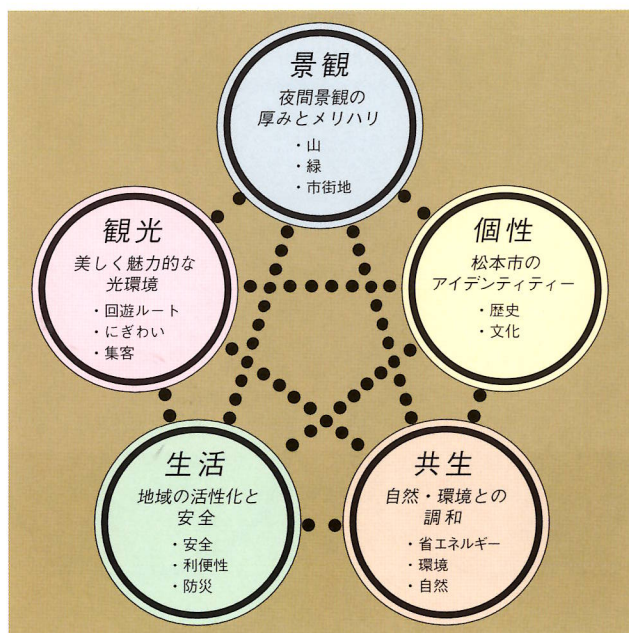
安全性・利便性・防災時などに配慮し、地域の人々の活気ある生活を支えるような夜間景観を創出する。

- 住宅地の照明の整備。
- 地域の主な施設、建物への照明。

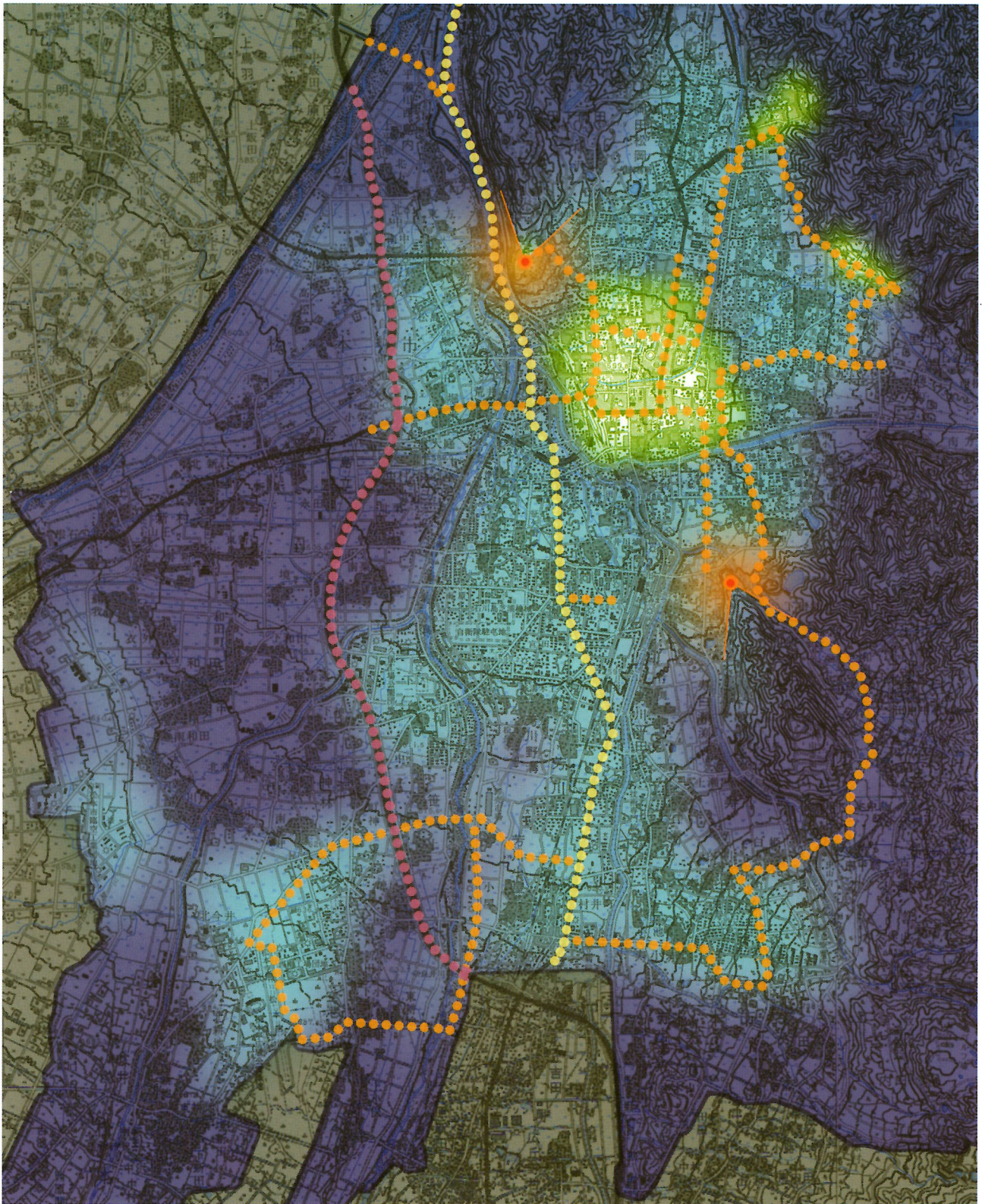
共生

自然との調和や省エネルギーなどに配慮し、環境との共生という視点を携えた夜間景観とする。

- 道路や商店街など上空へ光を放つ照明への対応。
- 暗さを保つ地域の設定。



景観マップ【松本市全域】



凡例

- ①優れた夜間景観を創出するゾーン
- ②安全で快適な夜間景観を創出するゾーン
- ③暗さを保つゾーン

- ①国道19号
- ②その他主要幹線道路
- ③長野自動車道

➤ 視点場

1 景観ゾーン

① 優れた夜間景観を創出するゾーン

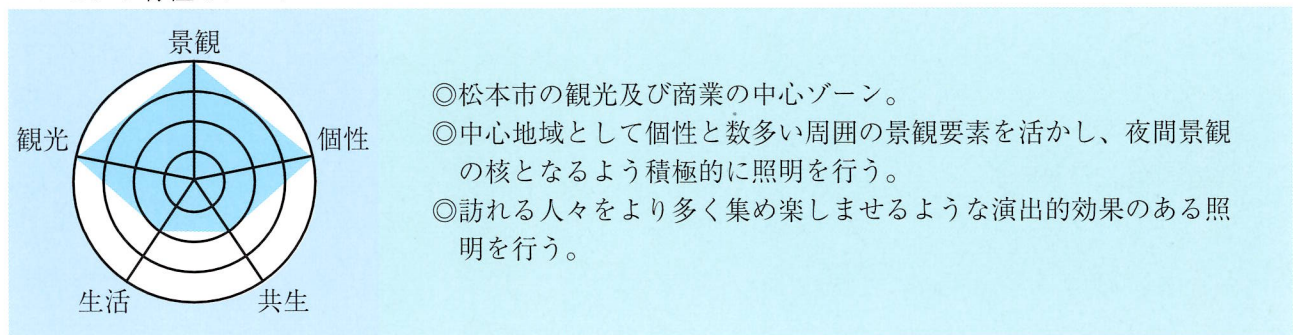
地域・景観特性

- 景観整備の重要地区を含む松本市の観光の中心ゾーン。
- 中心地域の街並みは高層ビルが少なく、平坦に広がっている。
- 松本駅や主要幹線道が位置する観光上の交通の基点となる地域。
- 松本市を代表する歴史的建造物や、商業施設などの観光の中心施設が、この地域の中央部にある松本城を囲むように存在している。
- 電線類の地中化に伴う街路灯の整備や、松本城及び門などに照明を行っている。
- 中心地域以外にも観光拠点は散在しているが、夜間に訪れる人も無く闇に埋もれている。



基本方針

コンセプト特性イメージ



- ★松本市ならではの夜間景観を構築するため、歴史的建築物、親水公園、商業施設、橋梁などの建造物や構造物に対して積極的に照明を行う。
- ★商業活動の中心として機能している商店街においては、地元の利用者とともに外部から訪れる人々に対しても魅力的な空間となるような工夫が求められる。
- ★商業地域において、ある程度ボリュームのある建物(百貨店等)は、通りに面したファサードの印象が、地域全体のイメージ醸成に大きく関わってくるため、他の建物との調和の中で、地域の夜間景観として好ましい雰囲気を作り出すことが重要である。
- ★国道などの大通りを中心とした街路における道路照明や歩行者用の照明は地域全体に及ぶため、光の仕様や照明器具意匠に統一感や個性を創出することが重要である。また人々の安全確保として、その量や光色、明るさなどの面で不十分な箇所に対しては改善を行う。
- ★広告塔、看板、ネオンサイン等、商業地域において最も盛んに主張し合う、広告宣伝を目的とした光の競演に関しては、全くの野放し状態とならないように、光の仕様ガイドラインを設けて、景観全体として個性を表現できるような秩序を創り出すことが望まれる。

②安全で快適な夜間景観を創出するゾーン

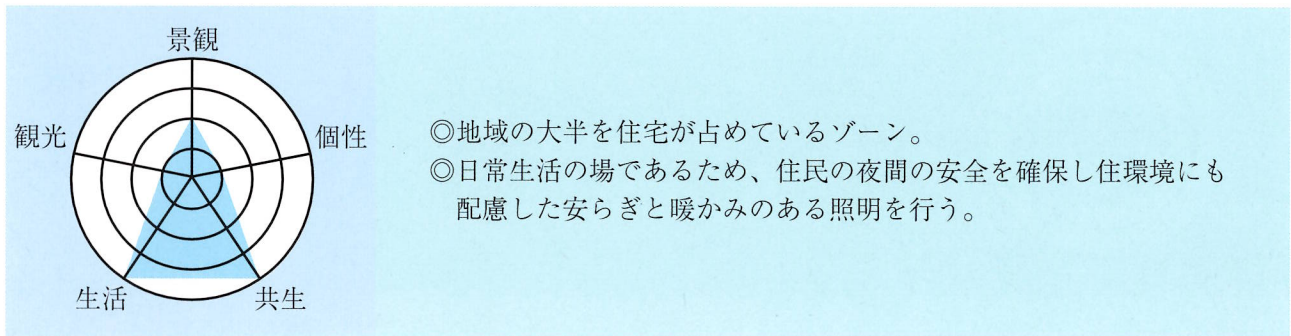
地域・景観特性

- 中心地域の外周部、J R線・国道19号沿い、及び松本空港周辺地域の住宅・産業複合ゾーン。
- 人々の生活圏は、松本平の平野部に広がっている。奈良井川沿いには案外住宅が少ない。
- 整備された住宅街は少なく、土地なりに宅地化の進んだ地域や工場団地が多い。
- 主要幹線道路以外は街路灯の整備が十分とは言えず、全体的に暗い印象の夜間景観となっている。



基本方針

コンセプト特性イメージ



★住宅地域における街路では、人々の家につながる空間として、安全・安心かつ飽きのこない自然な雰囲気の光環境によって、良好な住居環境を創り出すものとする。

- 生活道路として夜間人々が安心して歩けるよう、十分な明るさを確保することが求められるため、街路照明の充実が求められる。
- 街路の光環境を構成する道路照明や歩行者用の照明は地域全体に及ぶため、人々の安全確保と同時に、光の仕様及び照明器具としての意匠にも統一感のあるデザインが展開され、ゾーンとしての個性を創出することが重要である。

★工場及び倉庫の保安灯は機能上必要な照明であるが、周囲に強い光が漏れないよう景観上の配慮が必要である。

★公園など地域の憩いの空間では、空間においても人々が安全にくつろぎ、散策を楽しめるように、動線沿いにおける足下周りの十分な明るさを確保する。

- 住宅ゾーン内の公園や緑地では、夜間でも人々が景観を楽しめるように、樹木などの各修景要素を利用した豊かな夜間景観を創出することが望ましい。
- 憩いの空間においては、輝度の強い眩しい光や明るすぎる照明は極力避け、落ちつきの中に安心感の得られるような、場の雰囲気に配慮した光環境を実現することが重要である。

★住宅ゾーンの中に点在する公共建築その他公共性の高い施設には、建物外観照明を行うなど、夜間においても地域の人々に親近感・安心感を与え得るよう、配慮することが重要である。

③ 暗さを保つゾーン

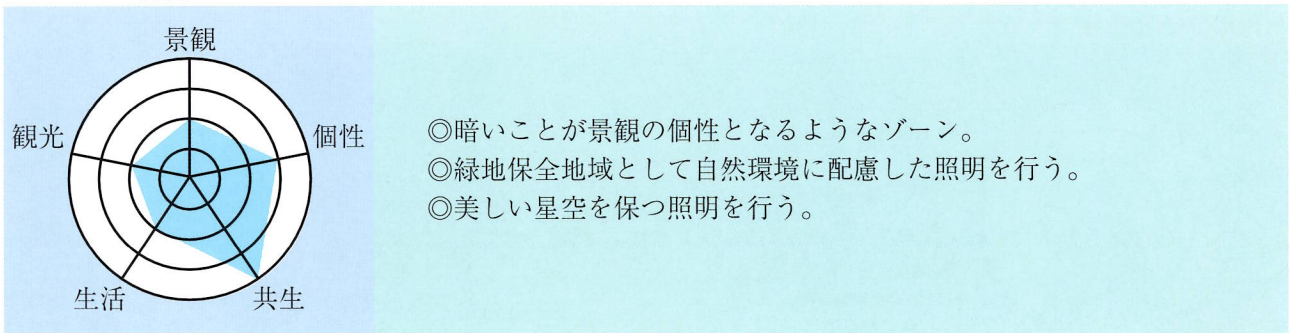
地域・景観特性

- 松本平の農業地区、市東側の丘陵緑地、八ヶ岳国立公園を含む山地部などの環境保全ゾーン。
- 田園や人々の生活圏から離れているため照明設備が無く暗く沈んだ景観となっている。
- 空気が乾燥しているという気候の特徴から、空が澄んでいて星空が美しい。



基本方針

コンセプト特性イメージ



★いたずらに演出的な照明を施す必要が無く、暗い地域であることが、逆に景観としての個性となり、分かりやすさに繋がるよう、必要最小限の照明整備を心がける。特に街路灯は、上空へ光が発散しない灯部を持つ器具を設置する。

★特に自然環境を重視した公園においては、環境・動植物への配慮を十分に行うことが重要である。

2 景観軸

① 国道19号

機能・景観特性

- 松本市西部を南北に縦貫している。中心地域には直接繋がっていない。
- 景観的連続感は無く、沿道には郊外型店舗や飲食店舗が並んでいる。
- 街路灯の整備は部分的には済んでいる。所々で高圧ナトリウムランプを使用している。
- 沿道店舗の看板照明や過剰な建物演出照明などが無秩序に設置され、夜間景観を壊している。
- 渋滞緩和のため、4車線化や立体道路化などの整備が計画されている。



基本方針

★街路は、周囲の景観に適合する形状、明るさ、光色の照明を統一感を持って整備する。十分な路面の明るさを得られ、上空への光が発散しない灯部を持つ器具を設置する。

★特に立体道路部については、遠景から眺望したときにそこだけが目立つ事にならないよう配慮する。

★看板照明については、光の仕様ガイドラインを設けて、景観を整理する事が望ましい。

② その他主要幹線道路

機能・景観特性

- 国道19号沿いの幹線道路は、19号に対し葉脈状に派生している。
- 田園周辺や山地の道路では、人々の生活圏から離れているため、照明設備が無く暗く沈んだ景観となっている。
- 交差点部及び住宅・産業混在地などには街路灯の整備がなされている。



基本方針

- ★街路は、周囲の景観に適合する形状、明るさ、光色の照明を統一感をもって整備する。十分な路面の明るさを得られ、上空へ光が発散しない灯部を持つ器具を設置する。
- ★暗闇を保つゾーンに係る道路には、交差点などに必要最小限の照明を整備する検討が望まれる。

③ 長野自動車道

機能・景観特性

- インターチェンジ（以後I.C）周辺は、沿道樹木が無く、郊外型店舗が建っている。
- 高速道路の分合流部やI.C付近では高圧ナトリウムランプのポール灯を使用している。



基本方針

- ★上空へ光が発散しない灯部を持つ器具を設置する。
- ★I.C付近は、高架などの構造物が目立ち人工的な景観となりやすい。街路樹帯を設け照明する事で、潤い感を演出する。

3 視点場

地域・景観特性

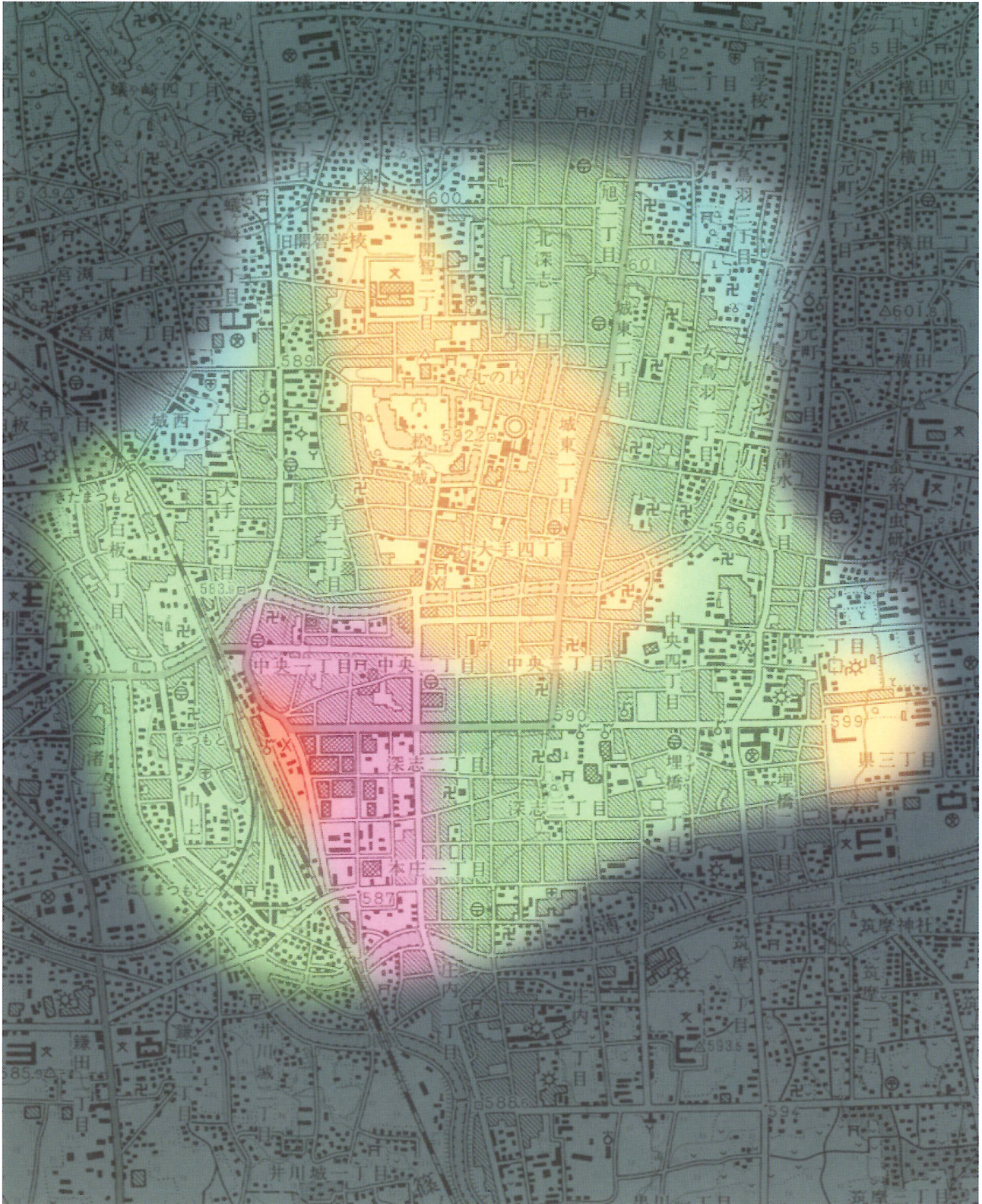
- 城山公園展望台は、中心地域に比較的近く小高い山の頂上にさらに展望台が有り、視点場として好条件を揃えている場所といえる。
- そこから見える夜景は、街の明かりが星をちりばめたように松本平に広がり、大変美しい。しかしながら松本城のライトアップの光が一部ギラついているのが残念である。
- 弘法山古墳は、視点場としては低いが北アルプスを背景にした市街地を望むことができる。



基本方針

- ★観光ゾーンの中心地域を見渡せる視点場として、夜間においても人々が安心して夜景を楽しめるよう、照明設備の整備を行う。
- ★視点場までの街路にも照明設備を整備し、アクセスしやすい環境を整える必要がある。

景観ゾーンマップ【中心地域】



凡例

- | | | |
|--------|-------------|----------------|
| ①観光ゾーン | ②商業、業務混在ゾーン | ③商業、業務、住宅混在ゾーン |
| ④住宅ゾーン | ⑤駅前ゾーン | |

① 観光ゾーン

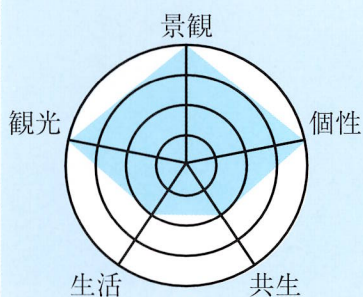
地域・景観特性

- 松本市内で景観整備上重要なゾーン。
- 国宝松本城に代表される歴史的建造物や遺跡、江戸時代の町人町に建ち並ぶ蔵の通り、大正時代の建築群など重要な観光アイテムが存在している。
- 松本城の内・外・惣掘、女鳥羽川など、中心地域の中でも水景を有した地域となっている。
- 大名町通り、国道143号、上土町通り、宮渕新橋上金井線など、主要な道路がゾーンを通り抜けているため、常時車の交通量が多い。
- 電線類の地中化に伴う街路灯の整備や、松本城及び門などに照明を行っている。



基本方針

コンセプト特性イメージ



- ◎松本市の観光の中心ゾーン。
- ◎個性と数多い周囲の景観要素を活かし、夜間景観の核となるよう積極的に照明を行う。
- ◎訪れる人々をより多く集め楽しませるような演出的効果のある照明を行う。

- ★松本市らしさのある夜間景観を構築するため、歴史的建築物、親水公園、商業施設、橋梁などの建造物や構造物に対して積極的に照明を行う。
- ★時代や建築様式ごとにまとまりのあるエリアに分かれているため、それぞれにテーマを設定しより個性的な夜間景観を創ることが効果的である。また観光客のために、その景観エリアを回遊させるためのルートづくりも必要となる。
- ★建造物の特徴によって、対象物に有効な光をきめ細かく施し、一つの場所から望むことのできる夜間景観に奥行き感や厚みを持たせることが重要である。
- ★江戸の町人町を模して整備されつつある縄手通り商店街や、中町の蔵の通りの商店街においては、地元の利用者ととも外部から訪れる人々に対しても魅力的な空間となるような工夫が求められる。
- ★街路における道路照明や歩行者用の照明は、光の仕様や照明器具意匠に統一感や個性を創出することが重要である。また人々の安全確保として、その量や光色、明るさなどの面で不十分な箇所に対しては改善を行う。



② 商業・業務混在ゾーン

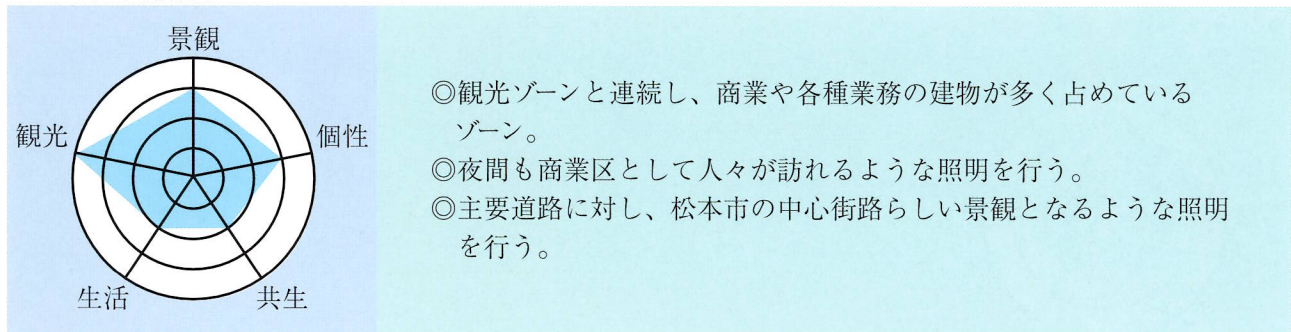
地域・景観特性

- J R 松本駅の東側に位置し、中心地域全体における商業・業務の中心となるゾーン。
- 駅前大通り沿いにオフィスビルが建ち並び、一般的な都市と同様の景観となっている。
- 駅前大通りを挟み北側に専門店や歓楽街の多いエリアと、南側に大型店の多いエリアに2分される。
- 歴史的建造物などは無いが、一部では蔵づくりの店舗が増えつつあり、松本らしい景観づくりへの意識が高い。
- 大通りの街路灯は整備され、暗さは感じない。松本公園通りは袖看板が多く、鉛直面が賑やかである。



基本方針

コンセプト特性イメージ



- ★商業活動の中心として機能している中央西地区の商店街においては、地元の利用者とともに外部から訪れる人々に対しても魅力的な空間となるような工夫が求められる。
- ★商店街として、にぎわいと統一感のある空間となるよう、街路灯や店舗に松本らしさを表現するような装飾的な照明を用いるとともに、店舗閉店後のたたずまいに関しても整備される必要がある。
- ★商業地域において、ある程度ボリュームのある建物（百貨店等）は、通りに面したファサードの印象が、地域全体のイメージ醸成に大きく関わってくるため、他の建物との調和の中で、地域の夜間景観として好ましい雰囲気を創り出すことが重要である。
- ★街路における道路照明や歩行者用の照明は、光の仕様や照明器具意匠に統一感や個性を創出することが重要である。街路のベンチ、植栽、樹木、ストリートファニチュアなどの修景要素も、落ちついた空間を創り出す光の要素として積極的に利用することが効果的である。
- ★歴史的な建築物や地域のランドマークとなるような建物に関しては、公共的な存在意義という観点から、建築意匠を生かした、ライトアップ等の外観照明を積極的に行う。



③ 商業、業務、住宅混在ゾーン

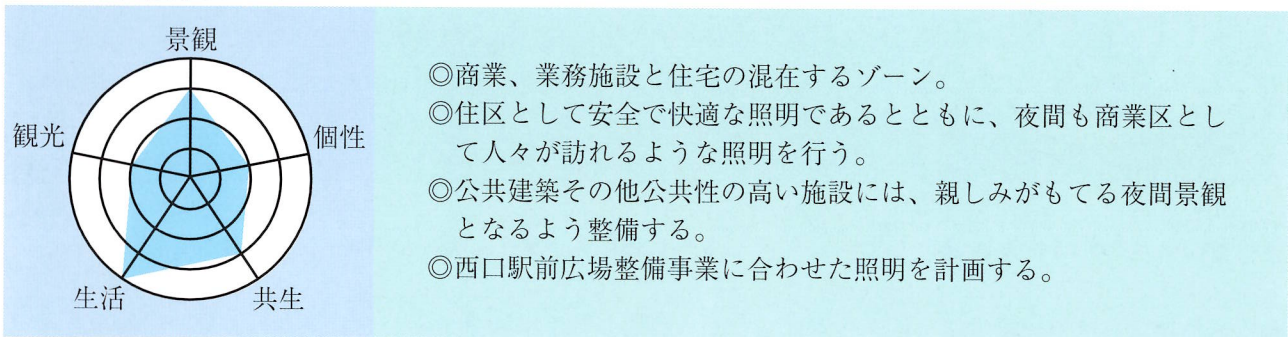
地域・景観特性

- 観光ゾーンや商業・業務ゾーンに連続し、周りに分布する、商業、業務、住宅が混在するゾーン。
- 城下町を囲むように、神社や寺が多く配置され、殆どが山門と屋根の大きな本殿を有する。
- 商業施設は近隣住民を対象にしており、活性化しているとは言えない。
- 駅前大通りにおいては、電線類の地中化に伴う街路灯の整備は進んでおり、スッキリとした景観となっている。今町通りについても電線類の地中化が進められている。
- 市民会館や建設中の美術館などの文化施設がある。
- 西側においては、駅に近い立地にありながら高度利用がなされておらず閑散としている。



基本方針

コンセプト特性イメージ



- ★日常生活の場である環境として、安らぎくつろぐ場にふさわしい暖かみのある光環境が必要である。
- ★住宅地域における街路では、人々の家につながる空間として、安全・安心かつ飽きのこない自然な雰囲気的光環境によって、良好な住居環境を創り出すものとする。
- ★街路における道路照明や歩行者用の照明は、光の仕様や照明器具意匠に統一感や個性を創出することが重要である。また人々の安全確保として、その量や光色、明るさなどの面で不十分な箇所に対しては改善を行う。
- ★商店街として、にぎわいと統一感のある空間となるよう街路灯や店舗に配慮するとともに、店舗閉店後のたたずまいに関する整備される必要がある。
- ★ゾーンの中に点在する公共建築その他公共性の高い施設には、建物外観照明を行うなど、夜間においても地域の人々に親近感・安心感を与え得るよう、配慮することが重要である。
- ★公園など地域の憩いの空間では、夜間においても人々が安全にくつろぎ、散策を楽しめるように、動線沿いにおける足下周りの十分な明るさを確保する。
- ★西口駅前広場整備事業に合わせた照明計画を行い、新しい魅力的な松本の夜景を創造し、松本を後にする観光客にとって記憶に残る景観づくりを行う。

④ 住宅ゾーン

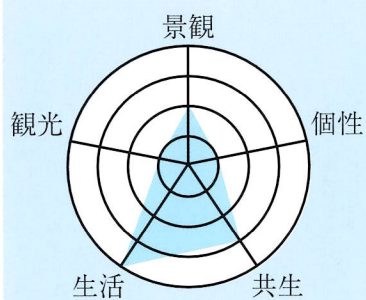
地域・景観特性

- 景観整備の重要地区を含む松本市の住宅の中心ゾーン。
- 中心地域の端部にあり観光ゾーンや商業、業務、住宅混在ゾーンに隣接している。
- 街路灯は整備されているものの暗い場所が多く、夜間の歩行に不安な光環境となっている。



基本方針

コンセプト特性イメージ



- ◎地区の大半を住宅が占めているゾーン。
- ◎日常生活の場であるため、住民の夜間の安全を確保し住環境にも配慮した安らぎと暖かみのある照明を行う。

- ★日常の生活の場である環境として、安らぎくつろぐ場にふさわしい暖かみのある光環境が必要である。
- ★住宅地域における街路では、人々の家につながる空間として、安全・安心かつ飽きのこない自然な雰囲気の光環境によって、良好な住居環境を創り出すものとする。
- ★街路における道路照明や歩行者用の照明は、光の仕様や照明器具意匠に統一感や個性を創出することが重要である。また人々の安全確保として、その量や光色、明るさなどの面で不十分な箇所に対しては改善を行う。
- ★岡宮神社などの歴史的な建築物や地域のランドマークとなるような建物に関しては、公共的な存在意義という観点から、建築意匠を生かした、ライトアップ等の外観照明を積極的に行う。

⑤ 駅前調整ゾーン

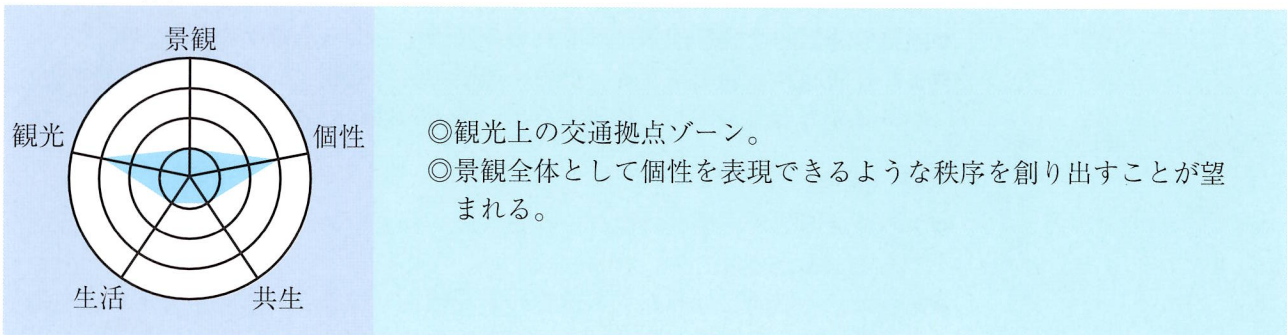
地域・景観特性

- 松本駅の東口駅前に位置し、主要幹線道路や路線バスが集中する観光上の交通拠点。
- ロータリー周りにおけるビルのファサード意匠には、特に統一感はない。ビルは壁のように立ちはだかり東山方向を望むことはできない。
- ビルの頂部にはすべて広告塔、看板、ネオンサイン等が設置されており、夕暮れに点灯を始めると、赤色や青色の光が激しく明滅を繰り返す。昼間以上に夜間の景観が損なわれている。
- 路面はハイマストポール照明によって必要な明るさがとれてはいる。ネオン光が強いため色が染まるなどの影響を受けている。



基本方針

コンセプト特性イメージ



- ★市内観光客やアルプス登山客の玄関口として記憶に残る魅力的な空間となるような工夫が求められる。
- ★商業地域において、ある程度のボリュームのある建物(百貨店等)は、通りに面したファサードの印象が、地域全体のイメージ醸成に大きく関わってくるため、他の建物との調和の中で、地域の夜間景観として好ましい雰囲気を創り出すことが重要である。
- ★街路における道路照明や歩行者用の照明は、光の仕様や照明器具意匠に統一感や個性を創出することが重要である。街路のベンチ、植栽、樹木、ストリートファニチュアなどの修景要素も、落ちついた空間を創り出す光の要素として積極的に利用することが効果的である。
- ★広告塔、看板、ネオンサイン等、商業地域において最も盛んに主張し合う、広告宣伝を目的とした光の競演に関しては、全くの野放し状態とならないように、光の仕様ガイドラインを設けて、景観全体として個性を表現できるような秩序を創り出すことが望まれる。



整備指針

夜間整備におけるゾーン毎の方向性を示した「松本市全域の景観ゾーン・軸・視点場の設定と方針」及び「中心地域の景観ゾーンの設定と方針」に対して、具体的に光環境アイテムとなる「建築物・構造物」・「公園」・「街路」を対象として整備指針の整理を行う。

上記は松本市全域の内、優れた夜間景観を演出する中心地域について明記するものであり、それ以外の施設等は中心地域の内容に準ずるものとする。

(1) 建築物・構造物

「個性」「景観」「観光」の重要度が高いゾーン

①観光ゾーン

照明手法

②商業、業務混在ゾーン

- 観光の中心地区として位置づけられており、建造物に対しては主に各設置方式の投光照明によって全体が十分な明るさとなるようにする。
- 建物の特徴的な意匠部分にはそれらを強調するような照明を行う。
- また昼間訪れる観光客も多いため、照明器具は景観上できるだけ露出させないようなものを選択し、露出する場合も違和感のないような処理を行う。

光源（光色）

- 中心地域として夜間長時間の点灯が求められるため、高効率で長寿命の光源であることが望ましい。
- 光色は、一般的には照射する建物の表面仕上げにより、暖色系であれば色温度を低めに、寒色系であれば色温度を高めに設定する。

「生活」「共生」の重要度が高いゾーン

③商業、業務、住宅混在ゾーン

照明手法

④住宅ゾーン

- 住宅地を含み建物も密集し敷地も十分ではないため、建物全体を照らすのではなく、個々の建物の特徴的な意匠部分を最小限の光で強調する各設置方式の投光照明を行う。
- 照明器具は、景観上できるだけ露出させないだけでなく、民家に対して光漏れなどの影響がないよう取り付けを行う。

光源（光色）

- 中心地区に比べて夜間の点灯時間は短いメンテナンス性を高めるため、高効率で長寿命の光源であることが望ましい。
- 光色は、照射する建物の表面仕上げによるが、住宅地でもあることから全体に暖かみのある光色にまとめることが望ましい。

(2) 公園

「景観」「観光」の重要度が高いゾーン

①観光ゾーン

照明手法

②商業、業務混在ゾーン

- 松本城やあがたの森の景観を楽しむ視点場として人々が夜間くつろげるよう、園路へのポール灯や庭園灯の設置だけでなく樹木照明やベンチ照明などを積極的に行う。
- 女鳥羽川護岸の親水空間は、その機能的制約上護岸自体に照明を設置できない。そのため石垣や建物を各設置方式の投光照明によって演出する事が効果的である。

光源（光色）

- 公園におけるそれぞれの修景要素に適した光源で、中心地区として夜間長時間の点灯が求められるため高効率で長寿命であることが望ましい。
- 光色は、修景要素によって異なり、一般的には緑色の樹木は色温度を高め、花壇の花やブロンズ像などは色温度を低めに設定することが望ましい。
- 親水空間の場合は演出内容によって他種類の色づかいもある。

「生活」「共生」の重要度が高いゾーン

③商業、業務、住宅混在ゾーン

照明手法

④住宅ゾーン

- ポケットパークのような公園に整備を行うものとし、夜間の利用ができる園路へのポール灯や園灯の設置だけでなく樹木照明やベンチ照明も積極的に行う。

光源（光色）

- 公園におけるそれぞれの修景要素に適した光源で、夜間に住宅地の拠点として長時間の点灯ができるよう高効率で長寿命であることが望ましい。
- 光色は全体的に暖かみのある光色にまとめることが望ましい。

(3) 街 路

「個性」「観光」の重要度が高いゾーン

①観光ゾーン

照明手法

②商業、業務混在ゾーン

- 観光ゾーン内の通りについては、路面を明るくする以外は、できるだけ光の拡散を抑えた下方向配光の歩道用ポール灯を配置する。
- 駅前通りなどの都市型道については、歩車道とも路面上の十分な明るさを確保できる歩車道用ポール灯を配置し、灯部は周囲に光漏れのしない下方向配光のものを用いる。
- 本町大通り・大名町通りや伊勢町通りは、商業施設が多いことから周囲の景観と適合する程度の明るさを確保する歩道用ポール灯を配置し、灯部は商業ゾーンとして個性と、整備された建物とのバランスを保つような器具意匠とし、グレアのない範囲できらめき感のある拡散配光（但し、上方への無駄な配光のないものとする）のものを用いる。

光源（光色）

- 主要幹線道路については、高効率で長寿命であることが優先され、光色としては白色系の光色が望ましい。
- その他の主な街路の光源としては、白色系の光色で高効率、長寿命であるだけでなく歩行者に配慮した演色性の高さも必要である。

「生活」「共生」の重要度が高いゾーン

③商業、業務、住宅 混在ゾーン

照明手法

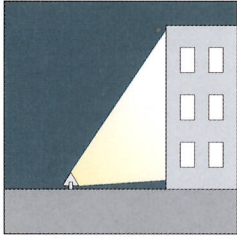
④住宅ゾーン

- 幅員の広い道路では、歩車道とも路面において十分な明るさを確保する歩車道用ポール灯を配置する。灯部は周囲に光漏れのしない下方向配光のものを用いる。
- 住宅地に対しては、幅員や民家との関係によって電柱への共架灯や歩道用ポール灯を用いる。灯部は周囲に光漏れのしない下方向配光のものを用いる。

光源（光色）

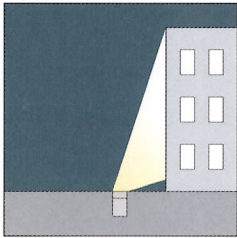
- 主要幹線道については、高効率で長寿命であることが優先され、光色は白色系の光色が望ましい。
- 他の街路の光源としては、白色系の光色で高効率、長寿命であるだけでなく歩行者に配慮した演色性の高さも必要である。住宅地は広範囲で照明の数量も多くなるため、実施、運用の面でも経済的なものが望ましい。

(1) 建造物のための照明手法



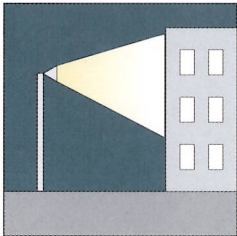
i 床置き式投光

- 投光器を床上に設置し建物を照らし上げる手法。
- 投光器や光源の選択により照射する高さや面積などを調整できるが、設置場所により周囲への漏れ光に対する配慮が必要となる。
- 器具が人目に触れないような設置場所に適している。



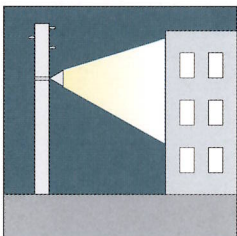
ii 埋込式投光

- 地中埋込型の器具により建物の下部を主に照らし上げる手法。
- 埋め込まれることにより人目に触れないが、器具の特性上照射する光の高さや配光などに制限がある。
- 昼間の景観に配慮が必要な場所への設置に適しているが、器具だけでなく電源などの設備も埋め込めることが条件となる。



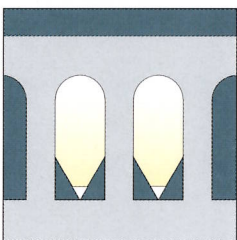
iii ポール取付式投光

- ポールに取り付けた投光器により建物を照らす手法。
- ポールの高さ分だけ障害物を避けて照射できる。また通行者など周囲への漏れ光に対する配慮を軽減できる。
- 投光器を床に置けないような場所での設置に適しているが、器具全体が床置きよりも人目に触れやすいため、設置場所により全体のデザインに配慮が必要となる。



iv 共架式投光

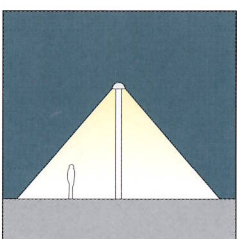
- 既存の支柱などに投光器を共架し建物を照らす手法。
- 投光器や光源を選択できるが、取付場所や器具の大きさ、重さが制限される。
- 建物の上部を照らすのに敷地に十分な広さがない場合や文化財など施設に対して工事のできない場所に適している。また設置場所により全体のデザインに配慮が必要となる。



v 建物設置式投光

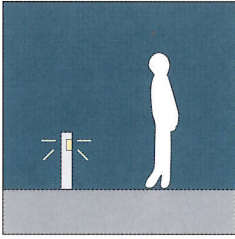
- 建物に照明器具を設置し投光する手法。
- 外部からの投光では表現できない建物の部分的な意匠を強調することができる。
- 設置については建物内外からの昼間の見え方だけでなく、投光時の建物内への影響について配慮が必要となる。

(2) 公園のための照明手法



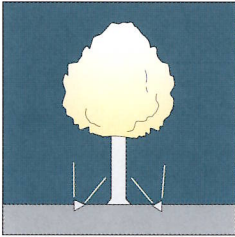
i ポール灯

- ポール灯によって園路を照明する手法。
- 灯部が高い位置にあるため、園路の広範囲を明るくし通行者の全身を視認することができる。
- 幅員の広い園路や、路上の視認性や保安性を高める必要がある公園に適している。



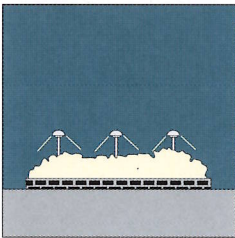
ii 庭園灯

- 庭園灯によって園路を照明する手法。
- 灯部が低い位置にあるため、路面は歩行に支障のない程度の明るさで通行者の半身しか視認できないが、その分周囲の景観が観やすい。
- 展望施設や園路沿いの施設（噴水、植栽など）が照明されている公園などに適している。



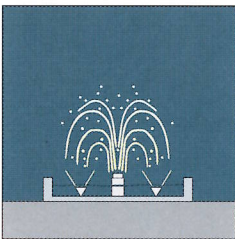
iii 樹木照明

- 埋込型の器具もしくは投光器によって樹木を照らし上げる手法。
- 照明によって鉛直面の光がつくりだされ、立体的な光の空間を演出することができる。
- 昼間の景観上は埋込型の器具が望ましいが、樹形や設置場所によっては投光器を選択する。



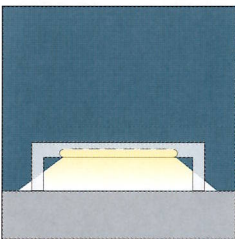
iv 花壇照明

- 低ポール式の照明によって花壇を照らす手法。
- 光源は見せずに下方方向だけ光を放つ器具を用いることにより、夜間も花壇を美しく見せることができる。



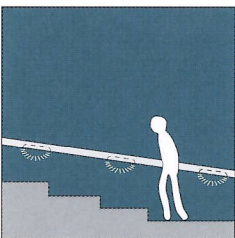
v 水中照明

- 噴水などの水系施設を水中の照明器具によって照らす手法。
- 光を受けやすい水の流れ落ちる部分や吹き出る部分など変化のあるところに対し、水中より投光することによって昼間とは違った水系の美しさを表現することができる。
- 水流に変化のある滝や噴水などの施設への設置に適している。



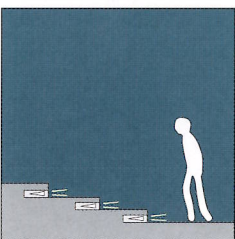
vi ベンチ照明

- 園内のベンチに照明器具を内蔵しベンチの足下を照らす手法。
- 夜間障害物になりかねないベンチに光を組み込むことにより、安全性と景観性ともに向上させることができる。
- ベンチの形状材質によっては、座面真下から埋込型器具で照明する手法が適している。



vii 手摺照明

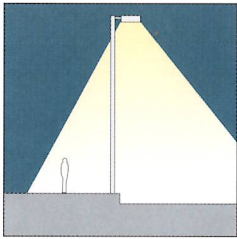
- 園内の手摺に照明器具を内蔵することにより、手摺の足下を照らす手法。
- 特に階段や展望施設など夜間も利用される場所の手摺に光を組み込むことにより、安全性と景観性ともに向上させることができる。



viii 階段照明

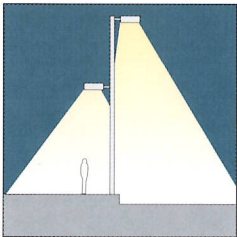
- 園内の階段や段差の立ち上がり部分に照明器具を埋め込み足下を照らす手法。
- 階段へ連続的に光を配置することにより、安全性の確保と光の点による立体的なリズム感を得ることができる。

(3) 街路のための照明手法



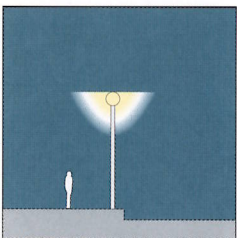
i 車道用ポール灯

- 高型 (15~10m) のポール灯。
- 高位置からの照明により、歩道部の明るさも確保することができる。
- 歩道の幅員の狭い幹線道路に適している。



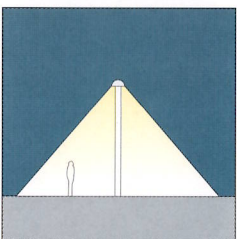
ii 歩車道用ポール灯

- 車道用ポール灯 (15~10m) に歩道用の灯部を付加したもの。
- 歩車道用にすることで道路上に出現するポールの数量を減らすことができる。また信号や標識など道路上の付属物を含めた総合的なデザインが景観上最も効果がある。
- 歩車道とも幅員が広い幹線道路に適している。



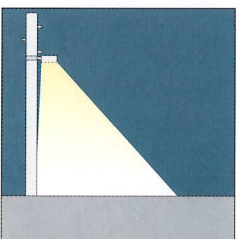
iii 歩道用ポール灯 (拡散配光)

- 灯部から光が拡散するようにした中~低型 (6~4m) のポール灯。
- 歩道専用のポール灯として周囲にきらめき感を与えるような灯部をもつ。光が周囲に拡散するため路面を明るくする効果は低い。
- 街路灯として路面の明るさより賑やかさや華やかさが望まれる場所に適している。
- 上方への無駄な配光はないものとする。



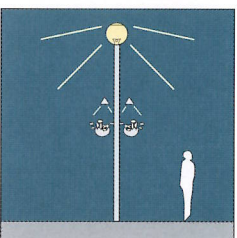
iv 歩道用ポール灯 (下方向配光)

- 灯部から下方向にのみ光を放つよう配光を制御した中~低型 (6~4m) のポール灯。
- 歩道専用のポール灯として周囲にまぶしさをできるだけ与えずに路面を明るくする。配光の制御の仕方によって広範囲に路面を明るくできる。
- 街路灯として路面を明るくする以外できるだけ周囲に影響しないことが望まれる場所に適している。



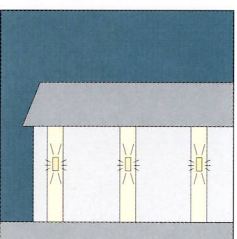
v 共架灯

- 街路にある既存の電柱などに共架するもの。
- 高所への設置のため、器具や光源の選択により広範囲を照らすことができる。
- 住宅地のように道路の幅員が狭くポール灯が設置できないような場所に適している。



vi デザインポール灯

- 商店街を演出する要素として歩道用の中~低型 (6~4m) ポール灯を積極的に利用する手法。
- 各々の商店街らしいデザインにするだけでなくバナーやフラワーポットなど季節や特別日に応じた装飾ができるような仕様にする。
- ポール灯が配置できるような幅員のある街路に適している。



vii ブラケット

- 商店街の各店の壁面にブラケットを取り付け、街路を演出する手法。
- 目線に近くその効果は高いが、各店舗の壁面構造の違いにかかわらず光の高さを一定にする必要がある。
- あまり幅員のない街路でも適用できる。
- グレアが強くなるよう配慮が必要である。

(4) 光源

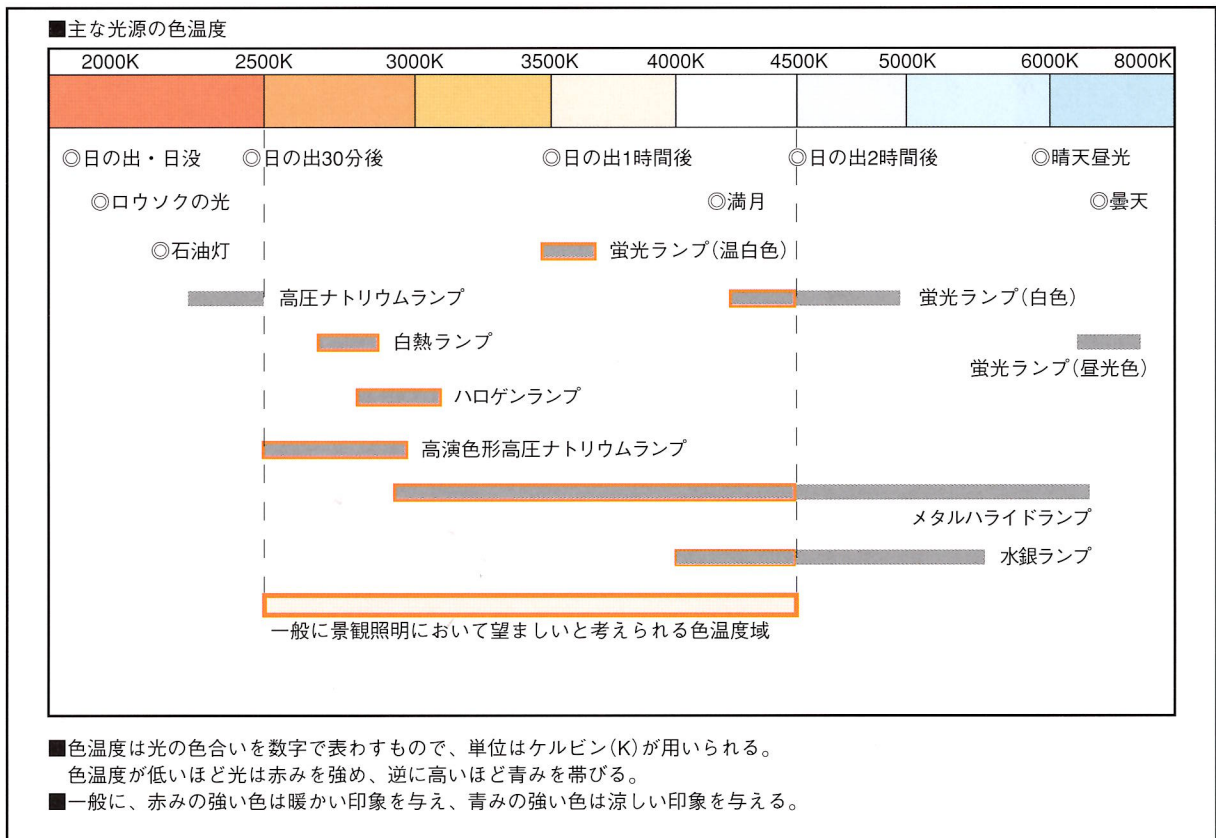
●光源について

ランプ名称	形状	概要	光色	演色系	総合効率	平均寿命(時間)	調光の可否
★高圧ナトリウムランプ		黄色味を帯びた白色で高効率	橙白色	高効率型 × 演色改善型 △ 高演色型 ○	高い	12,000	段調光可能
★蛍光水銀ランプ		一般的で凡用性が高い	白色	数種のタイプがあるが全般的に △	普通	12,000	段調光可能
★メタルハライドランプ		演色性が高く効率も良い	白色	数種のタイプがあるが全般的に ○	高い	9,000	不可
★小型高演色メタルハライドランプ		演色性が高く小型	白色 温白色	◎	高い	6,000	不可
低圧ナトリウムランプ		効率は高いが演色性が低い	橙黄色	×	高い	9,000	不可
蛍光ランプ		光色、形状とも豊富で多用途	白色 電球色 昼光色 ほか	数種のタイプがあるが全般的に ○	普通	7,500 ～ 10,000	可能 (不可のものあり)
白熱ランプ		手軽に利用でき安価だが短寿命	橙白色	○	低い	1,000 ～ 2,000	可能
ハロゲンランプ		小型で高演色系であり輝度が高い	橙白色	◎	やや低い	1,500 ～ 4,000	可能

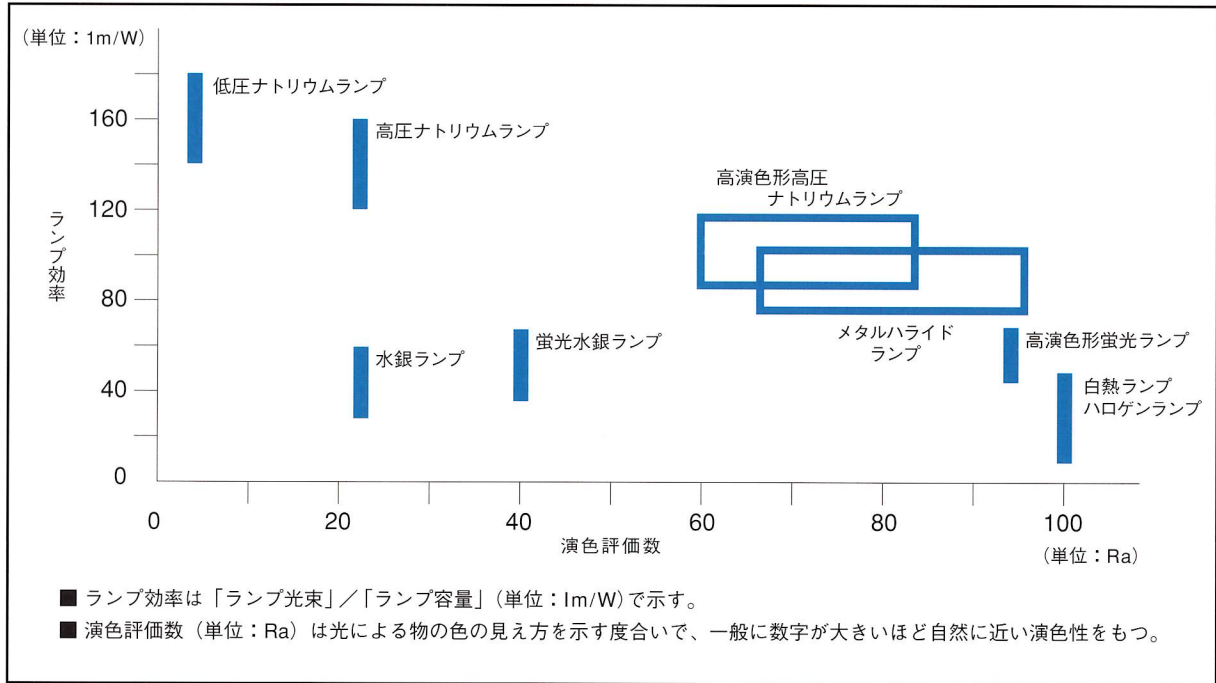
〈備考〉

- 上記以外にも多数のランプがあるが、屋外照明で一般的に使用するもののみリストアップした。
- ★印のランプは、高輝度放電灯 (H. I. D. High Intensity Discharge Lamp)。
- 上記以外のランプで、屋外照明でまれに使用するものを下記に示す。
 - 高輝度放電灯：安定器内蔵型水銀ランプ、カラーHIDランプほか。
 - 蛍光ランプ：カラー蛍光ランプ、無電極ランプ（電源のない高周波点灯の小型ランプ）、電球型蛍光ランプ、ブラックライトほか。
 - 白熱ランプ：耐震型電球、クリプトンランプほか。
 - その他：発光ダイオード、キセノンランプ、ショートアーク、レーザー、ネオン（高圧タイプ、低圧タイプ）ほか。

●色温度について



●演色性と効率について



●照度について

照度基準は下記の表の通りに定める。(出典：JIS照明基準 Z9110-79)

照度	歩道・通路				交通関連広場	公園	
	地上		地下			駅前広場 空港広場 (交通量大)	主要な 場所
1000 lx							
750 lx							
500 lx	アーケード 商店街 (繁華)			商店街 (繁華)			
300 lx				商店街 (一般)			
200 lx	アーケード 商店街 (一般)			連絡通路 (交通量大)			
150 lx							
100 lx				連絡通路 (一般)			
75 lx							
50 lx		商店街 (繁華)					
30 lx		商店街 (一般)			駅前広場 空港広場 (交通量大)		
20 lx			市街地		駅前広場 (一般)		
10 lx							
5 lx				住宅地			
2 lx							
1 lx							

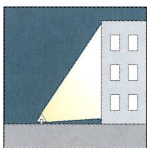
- 注・ 深夜には、1/10～1/20の照度の残置灯を設置する。
 ・ 出入口部は地上との連絡構造を考慮して増灯することが望ましい。交差点についてはより高い照度とすることが望ましい。
- 備考
1. 本表は、主として歩行者のための公共施設について規定したものである。
 2. 地下街の各構えに接する地下道に設ける非常用照明設備は、床面で10 lx以上の照度を確保すること。
 3. 主として自動車交通を対象とした照明については、下記の基準による。
 - (・) 自動車交通の用に供する道路は、JIS Z9111 (道路照明基準)。
 - (・) 自動車交通の用に供するトンネルは、JIS Z9116 (トンネル照明基準)。
 - (・) 横断歩道は、JIS Z9114 (横断歩道照明基準)。
 4. 通路には階段を含む。

① 松本城エリア

既に松本城天守閣、黒門、太鼓門が照明されており、松本市の中で唯一夜景を楽しめる空間となっている。しかしながら松本城天守閣の照明設備も含めて、現状の問題点とともに見直しが必要とされる。また、せっかくの夜間景観を近くで見るための雰囲気作りが遅れており、中央公園自体の整備も進める必要がある。上位計画の「松本城およびその周辺整備計画」の中には、外堀の復元、足駄堀の復元、隈櫓の復元が計画されており、その計画に合わせて照明整備も行い、周辺全体の夜間景観を整えることが重要である。



照明手法



- 投光器からの漏れ光が強くまぶしく感じるところには、適切な照明器具を設置する。
- 時間変化に対応した、きめ細かな照明計画を行う。

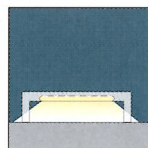
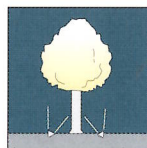
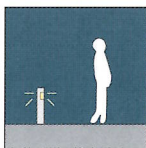
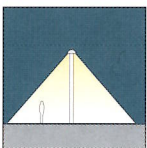
光源

- 白壁や石垣を引き立てる、演色性の良い白色系の光源を使用する。

中央公園



照明手法



光源

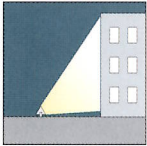
- 街路灯や樹木投光には、演色性の良い光源を使用する。
- 歩行者のための庭園灯には、暖色系光源を使用する。

② あがたの森エリア

中心地域のはずれに位置しているものの、大正時代に建てられた旧松本高等学校やその講堂など特徴的な建物を含むエリアで、このエリアの夜間景観を整えることは歴史的意義が大きい。また公園が併設されており、市民の憩いの場として活用されている。



照明手法



- 建築の特徴を活かした計画を行う。
- 手前のヒマラヤ杉に光を当てない手法が望ましい。
- 時間変化に対応した、きめ細かな照明計画を行う。

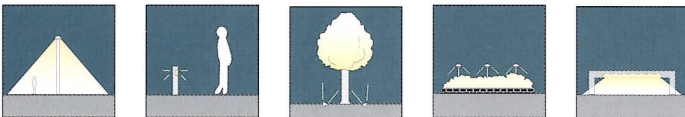
光源

- 建物表面の仕上げから演色性の良い光源を使用する。

あがたの森公園



照明手法



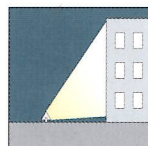
光源

- 街路灯や樹木投光には、演色性の良い光源を使用する。
- 歩行者のための庭園灯には、暖色系の光源を使用する。

旧制高等学校記念館



照明手法



光源

- 建物外壁の煉瓦色に合わせた暖色系の光源を使用する。

発行 松本市 都市開発部 都市計画課 都市景観担当
(Tel. 0263-34-3000 内線1914)
調査機関 (株)石井幹子デザイン事務所
発行日 平成14年1月15日
印刷 精美堂印刷株式会社

当基本計画に含まれる原稿、写真、及びグラフィックスなどの無断転載を禁じます。お問い合わせについては上記連絡先までご連絡下さい。



この用紙は全て100%再生紙で印刷インキは大豆油インキを使用しています。

